ももちゃんず210
「ぎゅっ。」

20261101

エリー

目次

01 じこしょうかい 1
02 おまもり 6
03 パオ 9
04 ふれあい 12
05 どうにもこうにも 15
06 やっぱりサリーちゃん！ 19

目次

01 じこしょうかい

わたし、ももちゃん。
ぬいぐるみの、うさぎなの。
ぴんくいろで、たおるのぬの。
ふわふわなんだよ。

ももこねえちゃんも、いっしょなの。

もちぬしは、サリーちゃん。
サリーちゃんが、3 さいのときに、であったの。
もう、20 ねんいじょう、いっしょ！

わたしと、ももこねえちゃんで、おせわしているの。
エリーかあさんや、ねこまるばあちゃんもいて、にぎやかなの。

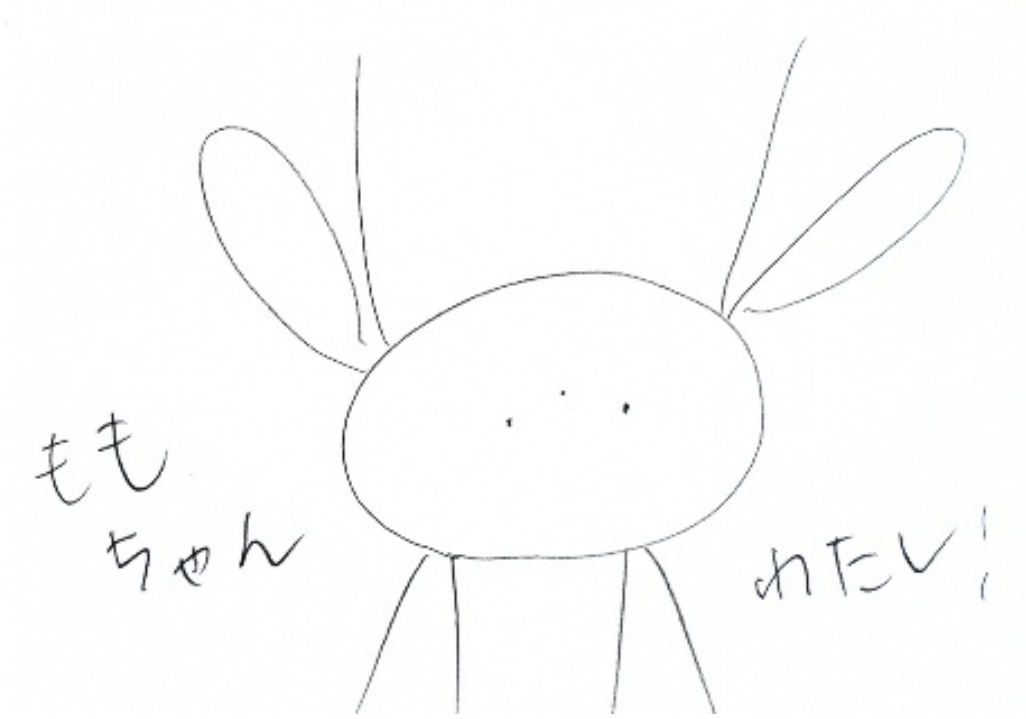
サリーちゃんにあいされて、つくもがみになっちゃった！
ひらがなをおぼえた。
カタカナも！

そして、「えにっき」をかくようになったの。

いつか、エリーかあさんみたいに、「しょうせつ」をかいてみたい！

そのゆめをいま、かなえる！
みんな、わたしのかいたおはなし、よんでね！

では、はじまります。
「ぎゅっ。」



01 ＼＿1 ももちゃん


ももこねえちゃん



01＼__3 サリーちゃん



01 ＼__ 4 エリーかあさんとねこまるばあちゃん

02 おまもり

サリーちゃんはいま、すごくおおきなまちにいるの。

エリーかあさんや、ねこまるばあちゃんとは、はなれている。

そう、あこがれのひとりぐらし！

だから、わたしたちがしっかりしないと、ちこくしちゃう！

きょうも、おきなわにいくのに、ぜんぜんおきない。

ぽっぺたをびよーんと、おもちみたいにのばしてもだめ。

さいごのしゅだん。
とびげりあたっく！
ふう。
やっとおきた。

ばったばたで、くうこうへむかったよ。

でもでも、でんしゃのなかで、おまもりをわすれたことに、きづいたの。

がってん、まかせて。
わたしがとりにもどったの。

でもあれれ？
おまもりをもつと、とうめいになれない！
サリーちゃんのところに、とんでいけない！！！

おまもりをおいて、サリーちゃんのところにかけつけた。
ちょうどでんしゃがゆれて、サリーちゃんがてすりにごちんこ。

ひたいに、手をあててさするサリーちゃんを、とうめいのすがたでみつめる。

わたしがおまもりを、へやにおいてきたから。

わたしのせいだ。

くやんでいると、ももこねえちゃんがついてきてくれたよ。

おまもりをもったぬいぐるみのわたし。
そらたかくまいあがって、くうこうへいそぐ。



02 おまもり

03 パオ

わたしは、ぬいぐるみのからだで、くうこうについた。
とうめいなももこねえちゃんに、みみをつかまれ、いどうしている。

さっ、ささささささっ。
ぬいぐるみがあるいてたらホラーになっちゃうからね！
いきかう、スーツケースにかくれて、いどうしたよ。

でも、サリーちゃんのひこうきが、わかんない。

こまっていたら、とおくでキラリと、なにか、ひかったよ。

そそそっとちかづくと、ビニールポーチ。
なかみは、あみぐるみのぞう！
みずいろのおおきなおみみ。
くるんとながいはな。
そして、ズボンをかたひもでつっている。
おしゃれでピカピカ。
まるでしんぴん！
なのになんだか、さびしそう。

するとびっくり、むこうからこえをかけてきた！

「やあ、ぼくはパオ。
きみたち、あいされて、つくもがみになれたんだね。
なのにどうして、ワタのからだできたの？」

わたりにパオ！

「サリーちゃんが、おまもり、わすれたの！」

いきおいよく、へんじするわたしのよこで、ももこねえちゃんが、れいせいにせつめいする。

「おまもりをもつと、なぜかとうめいになれなくて……あの、パオさんはおきなわにいくのですか？」

　わらいながら、パオはいった。

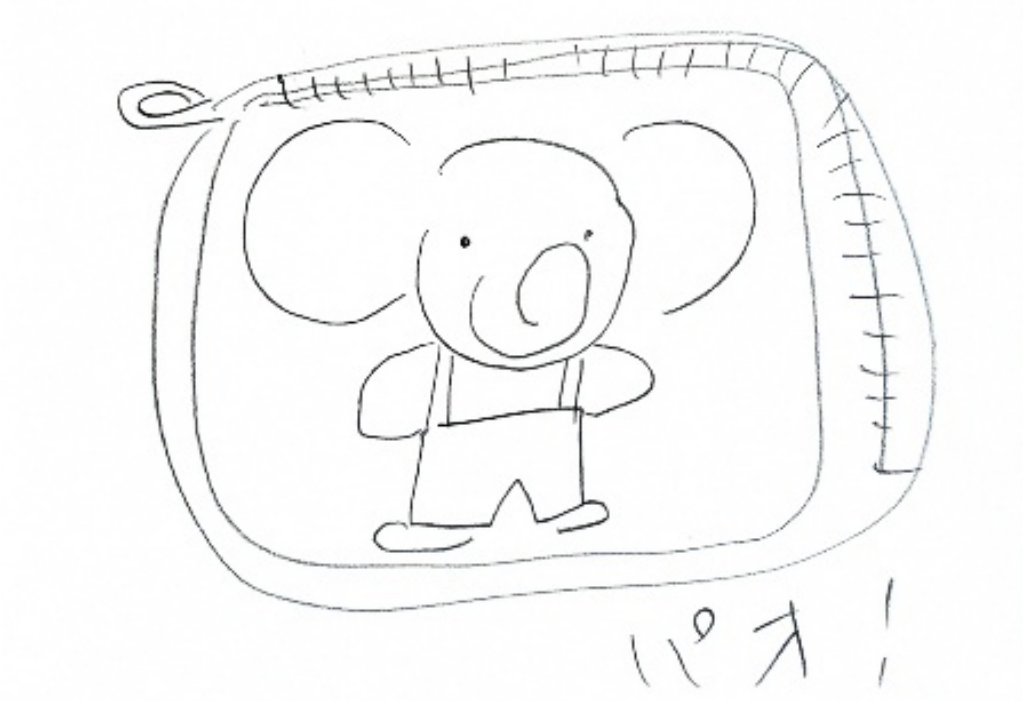
「パオでいいよ。
　ぼくとくれば、おきなわにつくよ。
　となりにおいでよ！」
「うん！」

　わたしはパオにちかづいた。
　あみぐるみって、けばだってて、ごわごわしてるんだな。
　はじめてみたよ！

「いもうとを、よろしくおねがいします」

　とうめいなすがたの、ももこねえちゃんが、ペコリとおじぎをする。
　そして、サリーちゃんのもとへ、とびさった。

　こんどこそ、わたしがおまもりをぜったいにとどける！！！



03 パオ

04 ふれあい

わたしとパオは、ひこうきのかもつしつに、はこばれた。

パオのポーチは、リュックについている。
リュックが、うまらないように、わたしはひっし。
ほかのにもつのうえに、リュックを、つみあげつづけた。

そして、かもつしつのドアがしまる。
あたりは、まっくらになった。

するとかなしそうに、パオがぽつりとつぶやいた。

「ももちゃんは、サリーちゃんにあいされてていいな。
ぼくはさわってももらえない」

そんなかなしいことがあるの！
わたしは、パオのポーチのファスナーを、ジジジとひらいた。
そしてパオのみみにそっとふれた。いがいとかため。

「みみ、おおきいね」
「うん、なんだか、はずかしいや」
「ふふ」

パオはじぶんのはなしをしてくれた。

「もちぬしには、だいすきなかのじょがいる。
ぼくは、そのかのじょの、てづくりなんだ。
かのじょのことはすきなのに、どうしてぼくには、さわろうとしないんだろう？」

めいたんてい、ももちゃん、あらわる。
きらん！

「かのじょにさわっているみたいで、はずかしいから？」
「えー、ぼくはぼくだよー」

　それはそうだ。
　なぞはふかまる。
　かんがえふけって、ゆだんしてたら、パオがわたしのみみにさわってきた。

「ふわふわだね」

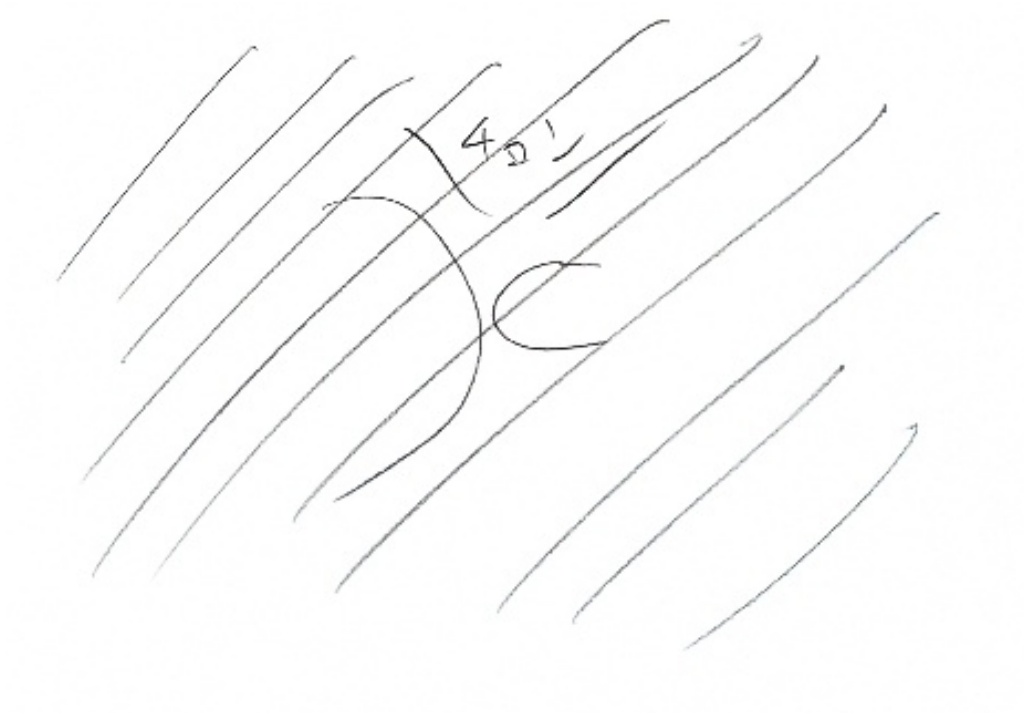
　レディーのみみにいきなりふれられて、ぷんぷんしそうになった。
　けど、さきにさわったのはわたしだった。
　ゆるす。

「いつもひとりだから、ももちゃんといっしょでうれしいな。
　ずっといられたらいいのに」

　それはゆるせない。
　わたしはすぐにこたえた。

「パオのことはすきだけど、わたしのいちばんはサリーちゃんなの。
　ごめんね」
「そっかぁ」

　こえがさびしそう。
　パオも、つくもがみになれたら、あそびにこれるのに。
　でも、さわってもらえないんじゃ……むりか。
　むむむ。



04 ふれあい

05 どうにもこうにも

わたしは、ひこうきのかもつしつから、ベルトコンベアにのってはこばれた。

パオのもちぬしが、わたしをみた。
ポーチにしがみついて、「つれてって」アピールを、せいいっぱいした。

ドキン、ドキン、ドキン。
どうする？

もちぬしは、リュックのくちをひらくと、だまってわたしをおしこんだ。

うぎゅぎゅぎゅぎゅ。
リュックのすきまから、そとをのぞきみる。
とてもおおきなたてものが、いっぱいならんでいた。

ここは、いったい、どこだろう？

ベッドと、つくえと、いすしかない、せまいへやについた。
リュックからわたしをだす。
パオをポーチのまま、つくえにおく。
そして、だまって、でていってしまった。

「ね、さわらないでしょ？」
「ほんとだ。かわいそう」

おまもりを、もったからだは、おもい。
あるくのも、ひとくろう。
でも、てをはなしたら！

サリーちゃんに、わるいことが、おきるかもしれない。

でもでも、サリーちゃんのこえも、ももこねえちゃんのこえも、きこえない。
いばしょもわからない。

どうしたらいいの？

　あいたいよ！！！

「うわぁぁぁん」

　ごうきゅうするわたしに、パオがやさしくささやいた。

「ぼくがいるよ。
　ぼくじゃだめなの？」

　だめなの！
　サリーちゃんのももちゃんなの！

　ガチャ。
　そのとき、パオのもちぬしがかえってきた。
　てに、かみをもっている。
　パオのまえで、ひろげた！

「じえいたいの、しょうしんしけんに、ごうかくしたよ。
　パオが、みまもっていてくれたおかげだ。
　いつもありがとう！」

　それだけいうと、てれくさそうに、へやをでていった。

　わたしは、びっくりして、とじたとびらを、みつめていた。

「みて！」

　ふりかえると、パオが、あみぐるみのからだから、ぬけだし、とうめいになっていた。

「つくもがみに、なったのね！」

　よろこぶわたしに、パオがあわてていった。

「はなにつかまって！」

　パオがまどをあけた。

「ももちゃんを、よぶこえがする」
「きっと、ももこねえちゃんだ！」

わたしは、おまもりのひもを、しっかりみぎてにもった。
そして、くるんとまるめた、パオのはなに、りょううでを、まきつけた。

パオは、みみをはばたかせて、ものすごいスピードで、うみのうえをとびさった。

するとしまかげの、うみのうえで、ももこねえちゃんがあわあわしている。
すいちゅうをのぞくと、すきとおったうみのなかがみえた。

のぞきこむと、スキューバダイビングをしている、サリーちゃんがいる。
さんそマスクが、はずれて、とてもくるしそう。

わたしは、みぎてのおまもりを、いきおいよく、すいちゅうになげこんだ。

つぎのしゅんかん、サリーちゃんがひかりにつつまれた。
かいすいがわれ、サリーちゃんは、マスクをつけることができた。

そのちょくご、ひかりはきえ、サリーちゃんのまわりに、かいすいがもどった。

「やった。やりとげたよ！」

あんしんするとどうじに、わたしのワタのからだが、うみにドボンとおちた。
なみにゆられて、ぷかぷかとながされていった。



05 どうにもこうにも

06 やっぱりサリーちゃん！

　ざばーん！

　サリーちゃんが、かいめんにあがってきた。
　そして、とうめいのわたしが、じぶんのからだをひろいあげるよりさきに、だきあげてくれた。

　やっぱりサリーちゃん！
　すき！
　ちゅっ。

　サリーちゃんと、ももこねえちゃんと、よろこびあっていると、パオがもじもじおりてきた。

「あの……ぼくはパオ」
「たすけてくれて、ありがとう。
　いつでも、とうめいになって、あそびにきてね」

　パオ、ふあんそう。

「ほんと？」
「ほんとだよ」

　パアッっとあかるくなる。

「わーい」

　わたしと、パオと、ももこねえちゃんは、うれしくて、うみのうえをとびまわったよ。

　おきなわから、サリーちゃんがかえるまえ。
　パオのもちぬしが、なにをしているか、こっそりみにいったよ。

　そのあいだ、サリーちゃんは、ぬれたわたしを、あらってかわかしてくれたの。

　パオのもちぬしは、つちのうえで、ほふくぜんしんしたり、はしりこんだりしている。

じゅうのていれまで！

とてもとてもきびしいくんれんに、わたしはびっくり。
パオははこらしそう。

つくもがみでも、いちどいったばしょしかとべない。
だから、おきなわからかえるひ、パオがとうめいになってついてきたよ。

サリーちゃんのいえについたら、たれれおやこが、でむかえてくれたよ。

ほかにもたくさんのぬいぐるみに、パオはびっくり！
もうさびしくないね！

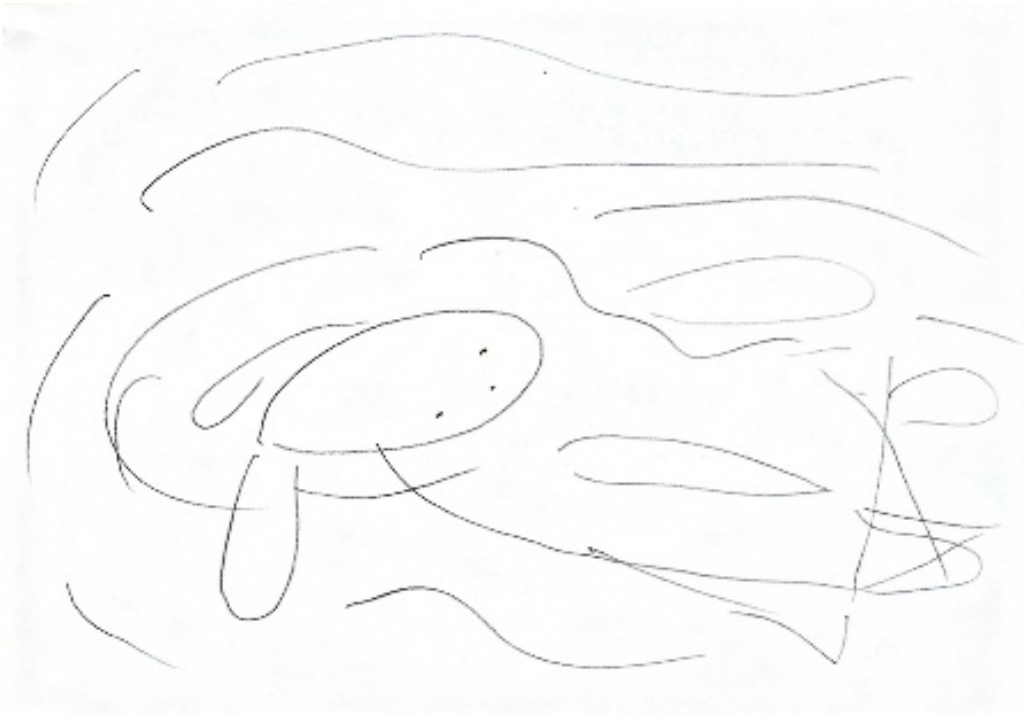
「あ、よくあらったのに、まだパオのけが、ついている。
あみぐるみって、さわるとわしゃわしゃに、なっちゃうんだよね」

それだ！

パオも、きづいた。

「だから、さわって、くれなかったのか。
なんだ。そっか」

よかったね。パオ！



06 やっぱりサリーちゃん！

ももちゃんず210「ぎゅっ。」20261101

著　者　　ELYE

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社